

健康福祉分野

目標 ～命・くらしの支え合い～

高齢者、障害者、子ども、生活困窮者をはじめすべての人が、住み慣れた地域において健やかな暮らしと生きがいを共に創り、充実した保健、福祉、医療環境の下、生涯にわたり安心な生活を送りながら、互いを支え合うことができる社会の実現を目指します。

【背景】

(健康福祉・保健・生涯現役関連)

- 地域や家庭、職場等の日常生活の様々な場面において、人と人とのつながりが希薄化し、互いを支え合う基盤が弱まってきています。
- さらに、近年では、8050問題(※1)やダブルケア(※2)など複合的な課題が顕在化し、住民の福祉に対するニーズがますます複雑化・多様化する中、対象者別、機能別に整備された相談支援やサービスなど、従来からの公的支援では、十分に対応することが困難なケースが見受けられます。
- 年齢や障害の有無などに関わりなく、誰もが普通の生活を送ることができるノーマライゼーションの理念が浸透し、よりきめ細かな福祉の対応が必要となっています。
- また、超高齢社会においては、単に寿命が長いだけでなく、「いかに健康的に過ごすことができる期間を長く保つか」といった「健康寿命(※3)」を伸ばすことが重要です。

(子ども・子育て関連)

- 核家族世帯や共働き世帯の割合の増加(※4)等に伴い、子育て家庭を取り巻く環境が変化し、子育てへの負担や不安、孤立感を抱える保護者が増えています。
- こうした状況の中、妊娠期から子育て期への切れ目のない支援が求められており、これまでも、全妊婦面接相談、乳幼児健康診査(※5)といった妊産婦・乳幼児の健康づくりへの支援や教育・保育の提供体制の確保(※6)、延長保育の実施といった保育サービスの充実に努めてきました。

(生活衛生関連)

- 集団食中毒による健康被害のほか、近年では、新型インフルエンザや新型コロナウイルス等の新たな感染症(※7)の発生や、人、物のグローバル化や大規模集客イベントの開催などによる感染症の拡大が住民の健康の脅威となっています。
- これらの脅威に対応するためには、平時より、健康危機管理体制を整えることや情報共有が重要であり、本市においても、関係機関と連携した体制を構築してきました。

資料1

※1 中高年のひきこもり者数(全国推計) ※2 育児・介護・ダブルケア世帯数(全国推計)

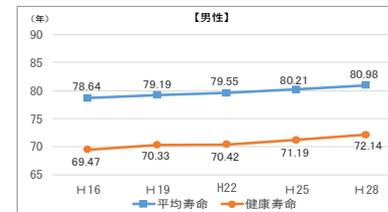
	推計数(万人)
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみだけ外出する	24.8
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	27.4
自宅からは出るが、家からは出ない	6.5
自宅からほとんど出ない	2.6
合計	61.3

(資料) 生活状況に関する調査(平成31年3月) (内閣府)

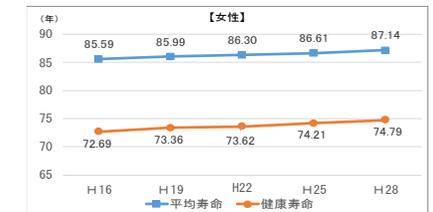
年	育児世帯(万人) (未子が未就学児)	介護世帯(万人)	ダブルケア世帯(万人)
H13	535.2	274.9	13.7
H19	512.1	480.8	18.7
H25	485.4	575.3	16.6

(資料) 平成27年度育児と介護のダブルケアの実態に関する調査(内閣府)

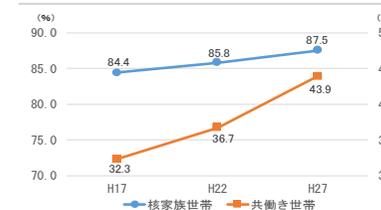
※3 平均寿命と健康寿命(日常生活に制限のない期間)の推移(全国推計)



(資料) 令和元年版高齢社会白書(内閣府)より作成



※4 核家族世帯・共働き世帯の割合



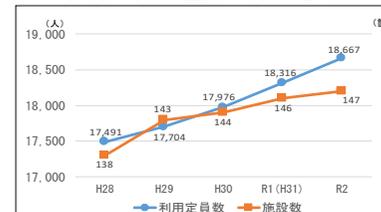
(資料) 平成17年、22年、27年国勢調査より作成

※5 全妊婦面接相談、乳幼児健康診査

年度	妊婦面接率(%)	乳幼児健康診査受診率(%)			
		4か月児	10か月児	1歳6か月児	3歳児
H26	96.8	97.6	94.5	97.6	97.4
H27	96.9	98.1	93.7	96.7	97.4
H28	96.6	97.4	94.6	97.5	97.6
H29	97.0	97.6	94.5	97.1	98.1
H30	96.5	98.2	95.2	96.8	96.5

(資料) 令和元年度保健衛生年報(姫路市)

※6 教育・保育施設の利用定員数



(資料) 幼保連携政策課

※7 世界・国内で発生した主な感染症

	感染症名
H15	SARS(重症急性呼吸器症候群)
H21	新型インフルエンザ(H1N1)
H24	MERS(中東呼吸器症候群)
H26	エボラ出血熱
H31(R1)	麻疹
R2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

(資料) 厚生労働省資料より作成